

登録コード	L1440900	開講年度	2026	
担当教員	前田 豊	副担当		
授業科目	社会調査実習 I			
英文授業名	Social Research Practicum I			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文313演習室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力		⇔	量的社会調査の方法論的知識やスキルを習熟し、多様な社会現象を適切に切り取る方法を修得して実践できるようになる。
	【2022年度以前カリ対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力		⇔	テーマ設定から分析までの量的社会調査のプロセスを経験することで、経験的にリジットなアプローチで社会的事象に迫る方法を修得し、実践できるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	量的社会調査のプロセスや考え方を実践を通して理解し、応用できるようになる。
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	量的社会調査の方法論的知識やスキルを習熟し、多様な社会現象を適切に切り取る方法を修得して実践できるようになる。
授業で学べる「テーマ」	防災減災			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	2026年度は、自然災害と多面的な不平等をテーマとし、主に量的な社会調査を実施することを計画している。具体的には、以下の一連の項目に取り組む：(1) 関連する先行研究の精査, (2) 調査計画の策定および調査対象の選定, (3) 調査計画の策定, (4) 質問項目の作成と調査票の作成, (5) エディティング・コーディング・データクリーニング, (6) データ集計と分析, (7) 調査報告書の作成。			
授業計画	第1回 本年度の調査についてのインストラクション 第2回 量的社会調査の復習と実験的手法の概括 第3回 調査テーマについての学習① 第4回 調査テーマについての学習② 第5回 調査テーマについての基礎的情報収集①先行研究・調査の読み込み 第6回 調査テーマについての基礎的情報収集②統計情報の収集と分析 第7回 問いの構築① 第8回 問いの構築② 第9回 問いの報告会 第10回 調査票の作成① 第11回 調査票の作成② 第12回 調査票の作成③ 第13回 調査票の作成④ 第14回 プリテストの実施 第15回 分析方法の検討・授業アンケート 定期試験なし			
成績評価の方法	授業への参加度（発表及び発言）70%と期末レポート30%で成績を評価する。			
成績評価の基準	社会調査を成功させるためには、調査対象の背景知識と斯界の流れを組み入れたテーマ・問いの設定がまずは必要となる。そして、それらを基盤としつつも、向後の分析手法までもにらんだ適切な調査設計が求められる。成績はこれらの点について総合的に判断し、複合的に十分な水準・成果に達していると判断された場合は『卓越している』と評価し、いずれかの点で特に優れていると判断された場合は、その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価し、総合的に一定の水準を満たしていると判断された場合は『その水準にある』と評価する。			
事前事後学習の内容	授業で計画している一つ一つの作業が積み上げ式で展開されるため、以降の授業回で行う作業をスケジュール通りに遂行するために、十分な事前・事後学習／作業を行うこと。			
履修上の注意	本授業は社会調査実習Ⅱと連動しているので、受講は原則として社会学研究室の学生、ならびに他研究室の社会調査士資格取得希望者に限定する。			
質問、相談への対応	オフィスアワー、メール（ymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp）にて受け付ける。オフィスアワーの日時は初回授業時に伝える。			
教科書	使用しない			
参考書	適宜紹介する			